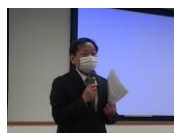


# 生産活動・就労支援部会

令和5年1月20日（金）にアスピーア明石にて、令和四年度農福連携推進会議・研修を開催しました。実践報告や、農福連携の現状、行政施策などの発表がありました。今回その様子をお伝えします♪



松端会長より、協会としての農福連携の意義についてお話があり、生活介護事業や就労継続支援事業でどのよ

うに支援しながら日中活動や生産活動につなげていくのか、課題や問題に取り組むための研修会としていきたいとの話でスタートしました。

## 実践報告



丹南精明園の本荘課長より丹ファームの現状についての実践報告がありました。丹南精明園は、前回の農福連携先進事業所等訪問事業での訪問地でもありまし

た。丹ファームでは、希少種の栽培を行い、付加価値を持たせることで収益をあげることに成功しています。以前は露地での栽培を行っていましたが、栽培が難しく天候によって作業ができなくなるなどの問題からビニールハウスでの生産に力を入れるようになりました。

ビニールハウスの活用は、農作業を行ううえでも有効であり、また希少種の栽培は難しさを克服できれば非常に有効であることをお話から学ぶことができました。

## 先進事業所の現状について



特定非営利活動法人兵庫セルフセンターの堂前氏より農福連携実施事業所の紹介がありました。

農福連携といっても事業所によって連携の方法は様々で、農業を通じ

て①企業との連携②地域との連携③technology との連携④事業継承としての連携などの事例を示していただきました。

Technology との連携では、収穫物の熟成状況を特殊な眼鏡を使って判別する方法で、熟練者でなければ判断できないような収穫物でも、眼鏡をかける事で見分ける事ができるとの事でした。誰でもわかりやすく瞬時に判断できるなんて、まるでドラえもののひみつ道具みたいですね♪

農福連携について、実際に取り組んでいる事例を示していただけたことで、「農福連携」の様々な形を知る事ができました。

## 行政施策について



兵庫県の農福連携の推進に向けた取り組みについてユニバーサル推進課の中嶋班長、農林水産部の中

田班長よりお話をいただきました。

「農福連携」を始めるきっかけとして、受託作業から入るのが取り組みやすいと言われていました。地域とつながる事が農福連携を成功させるきっかけとなり、地域振興にもつながっていくので、地域特性や強みを見極めて取り組み、付加価値を付けることが大切と言われていました。職員向けの研修、アドバイザーの派遣やマッチング支援等も行っているため、積極的に活用していきたいですね。



## グループワーク



グループワークでは、これからの農福連携を考えると題しまして農福連携を行う事でのメリット、デメリットを話し合いま

した。利用者の気分転換になる、地域の人との交流の場となる、自分たちで付加価値を付けることができるなど、また資材が高いことや天候によって作業が左右されてしまうことなどがあがりました。

兵庫県は五国と言われるように、地域によって気候が大きく異なります。豊岡の施設の方は、「この時期は毎日雪か雨です」と言われており、環境が大きく異なる兵庫で農業を一体的に考える事の難しさを実感しました。

今回、初めてグループワークを行いました。各施設の課題や実際の取り組み、使える補助金など活発な意見交換が行われました。

